

(別添 1)

【葛城市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	3,467	3,433	3,368	3,311	3,222
② 予備機を含む 整備上限台数	3,987	3,947	3,873	3,807	3,705
③ 整備台数 (予備機除く)	0	3,433	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	3,433	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	514	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	514	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	13.02%	0%	0%	0%

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和 7 年 1 1 月～令和 8 年 1 月に整備後 6 0 か月を迎える現行端末について、バッテリーの劣化や性能不足、破損や汚損に対応するため、令和 7 年度末までに更新する。
なお、学校現場における管理・運用負担軽減のため全台一括更新とする。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：3,723 台 (内 iPad：2,494 台、chromebook：1,229 台)

○処分方法 (iPad)

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 250 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託 : 2,244 台

○処分方法 (chromebook)

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 100 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託 : 1,129 台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

☒ 処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

令和 7 年 1 0 月 処分事業者 選定

令和 7 年 1 2 月 新規購入端末の使用開始

令和 8 年 1 月 使用済端末の事業者への引き渡し

(その他特記事項)

再利用台数は各施設の要望に基づき今後決定するものとする。

【葛城市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数：0校

総学校数に占める割合：0%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年度にネットワークアセスメントを実施しました。今後、その結果に基づき、改善計画を策定します。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、外部接続ネットワーク回線の増速については、段階的な対応を検討します。初年度は、現状の回線帯域の最適化と効率的な利用方法を探り、次年度以降に本格的な増速を目指します。具体的には、中規模校の通信状況を詳細に分析し、必要な帯域幅を慎重に見積もります。

アップデート等で負荷が増加した場合の対策として、サーバーリソースの事前調査と負荷分散の仕組みを導入します。大量のコンピューターを一度に更新するのではなく、計画的に少しずつ更新することで、ネットワークの安定性を確保します。また、バックアップシステムの強化や、更新時の一時的な負荷を分散させる技術的な工夫を検討します。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

アクセスポイントのより高性能な機器への更新については、負荷の高い機器を優先的に更新する計画を立てます。学校のネットワークの性能を少しずつ向上させ、子どもたちが快適にインターネットを使えるようにします。新しい無線規格や通信技術に対応した機器の選定を行い、将来的な拡張性も考慮します。

予算制約を踏まえ、中長期的な視点で段階的な整備を進めることで、効率的かつ持続可能なネットワーク環境の実現を目指します。各改善項目について、コスト対効果を慎重に検討し、限られた予算を最大限に活用する戦略を立てます。

この計画により、学校のネットワークインフラストラクチャーの質的向上と、安定的な運用を実現していきます。

【葛城市】
校務DX計画

令和5年度に市内小中学校を対象に実施した、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストに基づく自己点検」の結果では、県内平均を大きく上回る達成状況であったものの、多くの学校で「業務でのFAXの使用」、「保護者や外部とのやりとりで署名押印を求める」「教員に紙の書類の提出を求める」など、非効率な業務を行っている。

また、県域で導入しているGoogle Workspace for Educationや、令和4年度に市内全小中学校で導入した欠席連絡アプリの活用により、教員間、保護者間のやり取りのデジタル化に取り組んでいるが、デジタル化により効率化できと考えられるシーンは依然として多い。

デジタル化が進まない要因として、①業務変革を伴うデジタル化は学校単独では困難、②非効率な業務を行っていることに対する問題意識が学校内、市内で共有されていない、③校務情報を取り扱うネットワークが境界分離型であるためクラウドサービスとの連携が困難、の3点が考えられる。

以上を踏まえ、次の計画に基づき本市の校務DXを推進するものとする。

1. アナログ業務の見直し【非効率なものを見直す】

業務でのFAXの使用、保護者や外部とのやりとりにおける署名押印、教員による紙書類の提出を原則廃止する。

令和6年度末まで：業務担当者へのヒアリングを通じた現状把握、代替策検討

令和7年度末まで：廃止率：100% ※相手方の都合によって困難なものは除外

2. クラウド環境の活用【使えるものは徹底的に使う】

クラウドを活用して効率化できる業務を洗い出し、活用方法について市内全体で共有しながら検討を進める。

令和7年度末まで：まずはクラウド環境の活用により効率化できる業務の洗い出しを実施。洗い出した業務について、ネットワークのゼロトラスト化、次期校務支援システムへの移行を踏まえ具体的な活用方法を検討する。

令和8年度末まで：クラウド環境の校務での活用率：100%

※対象業務は令和7年度末までに選定する

3. 生成AIの活用【さらなる効率化】

文書作成や計画立案等、校務において教員の負担を軽減するため、生成AIの活用について検討を進める。

令和6年度末まで：既に活用している学校事例の横展開、事例研究

令和7年度末まで：生成AIを用いて校務の効率化を行っている学校：100%

【葛城市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では個別最適な学びと協働な学びの一体的な充実を目指すためのICTの活用に向けての取組を進めている。

個別最適な学びの実現に向けては、スタディログ（学習履歴）の蓄積や分析により、特性や学習進度に応じた指導方法や教材の設定していきたい。また、子どもの理解度や興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することも心がけている。その中で「学校でしか学べないこと」を大切にしており、協働的に学ぶ機会を多く取り入れている。今年度は、反転学習を活用し、学校では対話や協働作業の場面を増やすことで、一人一人の良い点や可能性を生かし、異なる考え方を組み合わせることで、より良い学びにつなげる場面を増やしていきたい。また、オンラインの利用により多様な他者となつながら、協働して探究的な学習や体験活動に取り組むことで、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会の変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるような資質・能力を高めていきたい。

2. GIGA第1期の総括

第1期では教師、児童生徒ともにICT活用能力の向上が見られた。教師においては電子黒板を板書代わりに使うことで時間の効率化を図ったり、図や表を見やすく掲示したりすることで、より分かりやすい授業を展開することができた。

児童生徒については、全員の考えを共有して思考させたり、データを集計して可視化させたりするなど、デジタルの特性を生かした学習を推し進めることができた。

ICTの活用については一定の向上が見られたが、今後は学力向上や深い学びの実現に向けてより効果的な活用方法を模索していきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市は「ICT活用推進委員会」を設置しており、各校での情報交換や公開授業の実施により、積極的かつ効果的なICTの活用の実現につなげている。特に授業におけるデジタル教科書の実践的な活用については令和10年度までに100%を目標とする。

また、令和6年度は「学習者の視点に立ったICTの効果的な活用」を委員会のテーマに掲げ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることを目標に取り組んでいる。特に「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において一人一台端末の活用を図っていく。

さらに、本市では今年度より全学校に「学校生活適応支援員」を配置し、教室に行くことができない児童生徒を別室で支援している。一人一台端末の利用により、集会や授業にオンラインで参加することができ、「学びの保障」につなげている。今後、端末を活用した教育相談を実施するなど、一人一台端末の利活用を増やしていく。